

Principal Correspondence

リリーベール小学校の役割

リリーベール小学校を設立し、幼小一貫教育をスタートして16年。

日本で誰も考えなかった『ほとんどの教員が幼児教育の担任を経て小学校教諭を務める』という試み……。

五感を刺激する「体験学習」に重きを置いた育脳教育も着実に実を結び、児童の学力や知能偏差値、進学実績など目に見える形で、成果を実感できるようになってきました。

私は、世界中というと大げさですが、アメリカ・イギリス・デンマーク・フィンランド・オーストラリア・ブラジル・台湾・香港・シンガポール・韓国・中国等々、100を超える幼稚園・小学校を見してきました。そこで思うのは、日本の幼少教育の質は世界でも一番だということです（文化が違うので言い過ぎかも知れませんが……？）。

でも間違いなく「大人の学力世界一」の結果は日本の初等教育が支えています。

今は、日本の幼稚園でも小学校でも、自己主張をさせ、自分で考えるということに力を入れています。仲間を思い、自分の主張と集団のルールを調整するような高度なことが年長児でもできる国はそうそう無いと思います。

また、例えばサウジアラビアでは日本の小学校の「掃除」を取り入れ始めたりしています。



国民の、学力や民度の平均レベルの高さ、犯罪率の低さはひとえにこの初等教育のおかげですが、日本から世界に通用する人を多く排出するには中等教育・高等教育の変革を待たねばなりません（中高一貫校が茨城に25校できるように、最近動きが急速になってきていますが……？）。



もうひとつ……。地方で活躍する人、地方にいて世界的な仕事をする人を育てていきたいということです。今の日本では東大・京大・早慶などの有名校にどれだけ合格させたかで評価されがちですが、そうした大学に進学した人の多くは、地元には帰らずにそのまま都会で就職するケースが見られます。「いい教育＝東京で働く人を育てること」になっているのは地方の教育機関としては非常に悩ましい問題です。

さらに言えば、都会の有名大学に進学して都会の有名企業に就職することが成功の証である機運そのものも、子どもの幸せを阻害しかねません。地方都市は刺激が少ないものの、幸せでゆとりある人生を送るにはうってつけの環境です。

私は地方にいて世界に活躍する人を育てたい。そして何より、学力の先にあるのはその子自身の人生の幸せに他なりません。そのためには「得意なこと」を見つけてそれを磨き、それを仕事にして毎日生きること。私は人間性の基礎を創る初等教育に関わり、さらにこの質を上げていく教育に挑戦していきたいと思います。

Principal Correspondence

夏は読書の季節です 偉人伝を読みましょう

世界第1位のランキングの大学、ハーバード大学で、同じような成績の学生を100人ずつ、30年後まで調査した例があるそうです。

①卒業の時に私はこういうことをしたいと目標を持っている人のグループ

100人

②とりあえず会社に入って、社会に出て流れて能力を発揮したいという人たちのグループ

100人

30年後の結果は

①の「目標が明確だったグループ」の99人が成功していました。

②の「目標が定まっていなかったグループ」で成功したのは2人だけでした。

これは必ずしも金銭的に成功したということだけでなく（人生の成功にはそのほかにも研究、名声、歴史に名の残る業績その他、様々な尺度がありますが）キャリア教育に大きな示唆を含んでいます。

キャリア教育とは学校の狭義では「人生の目標や、設計がうまくいかずフリーターやニートになってしまうことを避けるために行う教育。自立させるための進路の選択教育。」のことです。



私はこの時期(幼少期)には、偉人伝を多く読むことが有効だと思っています。様々な人が直面した数々の課題の中、問題を克服していくことで成した業績の数々。

「単にリッチになりたい」とか「IT長者になりたい」といような事だけではなく、「宇宙飛行士になりたい」とか「難病をなおしたい」「世界の恵まれない子どもたちを救いたい」といような幼少期に「志」を持てるような教育が大事です。

学童クラブでは夏は読書に良い季節だと考えています。夏休みの前に偉人伝を中心に図書コーナーを充実します。

さらに子どもにとって身近に置きたいのは図鑑です。図鑑は好奇心、探究心の窓といわれます。こうした環境は学童でも意識して揃えています。ご家庭でも低学年から（できれば幼児用なら4歳から）揃えたいものです。

